

川高同窓会報

埼玉県立川越高等学校同窓会
〒350-0053 川越市郭町2-6 川越高校内

【同窓会】電話・FAX (049) 225-9071 (直通) <http://alumni.gnk.cc/kawagoe/>
【学 校】電話 (049) 222-0224 (学校) <http://www.kawagoe-h.spec.ed.jp/>



ノーベル賞・梶田隆章氏が母校で講演



前会長・新会長・校長挨拶	2
秋季散策会	3
29年度案内・小川初雁会	3
28年度報告・川越初雁会	3
「川高初雁の森レポート」	4
くすの木俳句大会	5
特集 新制高校第1期入学生(高5回卒)	6
「新制川越高校の思い出」	6
平成28年度同窓会総会	10
顕彰碑除幕式・記念講演	10
定期総会・懇親会の報告	10
総会記念講演……梶田隆章氏	12
定時制ものがたり	14
「学校給食―空腹から飽食へ」	14
くすの木囲碁クラブの発足・	14
マスターズ甲子園報告	15
母校だより(一)	16
文化講演会	16
山本 浩氏	16
(法政大学スポーツ健康学部教授)	16
母校だより(二)	17
SSH報告・部活動の主な成績	17
母校だより(三)	18
進学状況・人事異動	18
事務局より	19
叙勲受章者・寄贈図書	19
同窓会総会のご案内	19
120周年記念事業開催・編集後記	19

目次

前会長・新会長・校長挨拶

同窓会長退任にあたって



同窓会長顧問
田中 正(高6)

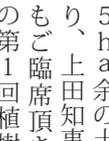
私は平成18年5月の同窓会総会で第19代会長に推挙され、10年間務めさせて頂き、昨年5月の総会で菊池現会長に引き継がさせて頂きました。

振り返りますと、平成21年川越高校創立百十周年で会員名簿第19号を発刊しました。また、同年、次の如く同窓会会則を改正しました。

- 一 会員全員に同窓会報の発送。
- 二 常駐事務局の設置。
- 三 会費納入規定の改正(平成23年度卒業生から正会員は入金金・終身会費含め2万円納入)。特に会費2万円については3年間の猶予期間を設け、その間積立をもらい無理なく納入できるよう配慮した。この決定には学校側のご協力を深く感謝しています。

以上により、同窓会と会員、学校との連絡がスムーズになり絆が一層強められ財政面でも強固になりました。
その後、卒業生の終身会費5千円も卒業後直ちに納付するように改正し、23年度から実施、同窓生の協力で終身会費の納入状況は極めて順調になりました。
平成23年度以降は社会貢献事業にも力を入れ、23年の東日本大震災に義援金は百万円を寄付、次に、学校創立百十周年事業として川越城本丸御殿に「川越城図」の記念碑を贈呈。平成

新会長挨拶



同窓会長
菊池 建太(高17)

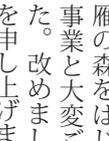
24年には飯能市名栗湖畔に2.5ha余の土地を飯能市から借り、上田知事、沢辺飯能市長にもご臨席頂き「川高初雁の森」の第1回植樹祭を実施し以降、毎年植樹祭を実施し、在校生にも多数参加頂き、川越高校の総力を結集する事業となりました。

平成27年10月、梶田隆章氏(高29)がノーベル賞を受賞しました。同氏のノーベル賞受賞は川越高校創立以来、最大の快挙である。この栄誉を讃え顕彰碑を建立し、平成28年同窓会総会当日、梶田氏にも出席して頂き除幕式を盛大に挙行し、総会で「ユートリノ小さな質量の発見」という演題で記念講演をして頂いた。

以上の如く折に触れ、皆様には多大なご支援ご協力を頂き深く感謝申し上げます。
結びに同窓会ならびに川越高校の益々のご発展をご祈念申し上げます。退任にあたってのご挨拶とさせて頂きます。

昨年、5月22日、東京大学宇宙線研究所長梶田隆章教授のノーベル物理学賞受賞の顕彰碑除幕式、記念講演に多数の方に御参加いただきました。私たち同窓生も大変な喜びでありました。その後、同窓会総会が開かれ、田中正会長の後任として会長を引き受けることになりました。高17回卒の菊池建太と申します。田中前会長におかれま

グローバル人材の育成



校長
青木 勇藤(高28)

加速度的にグローバル化が進展する中、生徒が社会で活躍する20年、30年後を見据え、世界に通用する人材を育成することが強く求められています。本校では他の県立高校に先駆け「次世代リーダー養成プログラム」という1週間程度の短期留学制度を独自に企画・実施し、3年が経過しました。

このプログラムでは、生徒が、カリフォルニア州立大学(UCLA)や世界最先端の研究機関を訪問し、英語で授業等を実際に体験したり、現地で多くの学生や研究者と直接交流を行っています。これらの経験は、生徒にとって、自らの将来へのビジョンを広い視野から考え構築していく契機となっているとともに、本校で学ぶ意義を再認識し、進学に向けたモチベーションを高めることにも確実に繋がっています。

プログラムの内容は、一貫して「リーダーシップ」をテーマとしています。具体的なトピックスとして、例えば前向きに考えることとは？ 成長とは何か？ リスクをとることとは？ 想像力とは何か？ モチベーションとは？ 成功するためには越えなければならぬ壁について等々、すべて英語でグループ・ディスカッションやプレゼンテーションを行い、生徒には大いに刺激となり自信に結びついています。生徒の感想を一部紹介

しては10年間にわたり、母校の教育支援、さらに、同窓会の事務局体制と財政確立、そして初雁の森をはじめとして地域貢献事業と大変ご活躍いただきました。改めまして深く感謝と御礼を申し上げます。
長い歴史と伝統を持ち、卒業生が輝かしい実績を上げている母校の同窓会長に就任することは、光栄であるとともに大変身の引き締まる思いであります。平成14年度から5年間校長として同窓会の皆様が大変お世話になりましたので、その恩返しとして微力ながら尽くしたいと思っております。そして、前会長の築かれました路線を継承し、2年後に迫っております120周年に向けて、取り組んでまいりたいと思っております。現在はグローバル化が進行し、これまで以上に人・もの・情報の交流が進行する中で、時代を担う人材の育成が求められています。そして、32年度大学入試の方法が大きく変わることが言われております。県立川越高校が引き続いて伝統を継承し、国及び地域に貢献できる人材育成を担うためには、同窓会の教育支援の充実も大きな力になると思っております。合わせて貴重な青春時代を過ごした同窓生の絆とアンソニションを深め、さらに地域への貢献も図りたいと思っております。
そのため、今年度、120周年実行委員会の設置を総会にお諮りし、31年度には120周年記念事業が実施できればと考えております。どうか、皆様方の御支援・御協力をお願い申し上げます。田中前会長におかれま

介します。
・「Take an initiative」を意識してとにかく発言する、人前で自分の意見を述べることを「実行」したことで、自分の中に湧き上がる自信と何か熱いものを本気で感じる事ができました。
・「Take risks」それは Leaderには不可欠なこと。でもそれはまた Leader になる前に、人と Communication をとり対等で友好な関係を築くためにも必要なことだと気付かされました。
・課題に対する僕たちの答えに對して常に「なぜ？」ということを聞かれました。日本では、そういう考えでその答えに至ったのかというよりも、答えそのものが合っているかどうかを重視する傾向にあります。これをきっかけに、何事においても理由を考えることは大事なことだと思ふようになりました。なぜなら、それをやる意味を考えることで目的をはっきりさせることができるからです。

このように、感想からもお分りのように、これからのグローバル社会において、生徒が自らの人生を切り拓いていく資質やコミュニケーション能力を涵養することは、学校教育にも要請される不可欠な命題となっています。この「次世代リーダー養成プログラム」を本校の教育活動として定着させることは極めて有意義であると考えます。志ある将来有為な若者にグローバルな体験をさせる機会を確保するため、今後も、同窓会の皆様には特段のご理解とご支援を切にお願い申し上げます。

第5回「川高初雁の森」レポート

平成24年7月23日、同窓会の社会貢献活動の一環として埼玉県・飯能市・同窓会が埼玉県森林づくり協定を結びスタートさせた「川高初雁の森」づくりは、平成28年度に第1期の締めくくりである第5年度を迎え、3回の幹事会に加え、次の活動を行った。

下刈り作業

6月17日(金)、事業部会役員を中心にOB20名。飯能市市職員及び「森の番人」併せて27名で下刈り作業を行った。植樹作業が進むにつれ、下刈りする面積も増える。作業2時間。しんどい！来たれ若人！



第5回植樹祭

9月25日(日)、第5回植樹祭を開催した。菊池会長・青木校長・生徒会を代表し、宇佐美君の挨拶。森の番人からの作業場の注意を受けた後、恒例の応援団の指導の下、応援歌「奮え友よ」を参加者全員で熱唱。作業を開始した。



応援団の激励

参加者は現役生40名、OB併せて80名。第5回目の植樹とあつて植樹場所はだんだんと高地に。獣害を抑えるために苗木も大きくしたため運ぶのも大変である。現役生たちが若さを發揮

し、上へ上へと運び上げるパワーに脱帽。2時間程の作業で予定の植樹が終了。さらに第5回記念としてシダレザクラの植樹を行った。



第一期(5年間)の状況

・総額 約1,184万円
各樹木は順調な生育となっている。しかし、鹿の食害対策が今後の課題である。

植樹総本数(5年間分)

主な樹木	1126本
クスノキ	5本
ヤマザクラ	170本
フユザクラ	120本
イロハモミジ	190本

ツツジ 90本
アジサイ 60本
ホオノキ 50本
・植樹料の納入状況
総額 14,086,168円
納入者 2,272人
6グループ

『埼玉県森林づくり協定』を更改

平成29年3月10日、埼玉県、飯能市、川越高校同窓会と更に5年間協定を更改しました。引き続き森づくりを行います。



平成29年度の事業計画

事業部会 年3回
下刈り作業 6月16日(金)

その他、森の番人による下刈り作業を2回行う。

第6回植樹祭

9月24日(日)

「川越高校新聞」取材記事

(10月11日号)より

市川章弘事業部会長さんに話を聞きました。

(質問) 植樹祭を行うようになった経緯について

埼玉県が行っている「一人一本植樹運動」に同窓会が協力する形で、5年前に飯能市から土地を借りて行うこととなった。

(質問) これからの初雁の森の運営方針は

これまでは植樹をメインに行ってきたが、5カ年計画が一旦終わったことで、草刈りなどの森の手入れが中心となる。森を美しくするにとっても時間がかかるため、在校生や飯能市職員の方と協力し、立派な森を作りたい。

(質問) 川高生に一言

我々だけではできないことが多かったが、苗を運ぶなどの力仕事をたくさん手伝ってもらい、とても助かった。また、応援部と校歌を歌うことができ、とても嬉しかった。今後の在校生の協力を期待している。



第16回「川高くすの木 俳句大会」のご案内

母校百周年を記念して始めたこの俳句大会も、本年度16回を迎え、母校関係者ほもとより幅広い方々が参加されています。本年も開催いたしますので、ご参加ください。

日時 8月26日(土)

受付 正午)

句会 午後1時~5時

会場 川高図書館2階

セミナー室

投句 夏・秋雑詠3句

投句先 〒350-00053

川越市郭町2-6

県立川越高等学校同窓会

投句締切 8月5日(土)

当日消印有効

会費 投句3句につき千円を

郵便小為替にて。在校生は

無料。

選者 柴崎甲武信氏(中48)

「春燈」同人

本阿弥秀雄氏(高18)

「本阿弥書店」顧問

●第15回俳句大会

作品集より

第15回俳句大会は、卒業生や母校関係者など31名が参加、在校生は296名が応募しました。

「卒業生の部」

紫陽花の色摘む今朝の濡れ鉄

村田のぼる(中41)

あじさいや津軽の海を

パトロール

神山 三男(中45)

朝顔は助六色や濃紫

佐々木 新(中48)

屋根裏に錆びしピッケル

山の日来

柴崎甲武信(中48)

ほんものの恋になるまで

居待月

斎藤 弘行(高3)

軒を行くつばくら稚し蔵の街

桜井 良之(高3)

ノーベル賞輝く窓や風薫る

宮崎 敏明(高3)

天の川光を探るニユートリノ

中村 誠佑(高11)

本を売り本を買ふ街祭笛

岡部つねを(高15)

鷺草の翼よあれが巴里の灯だ

小林 幸二(高17)

ジャズの音や残暑にあえぐ

蔵の街

関口 高栄(高17)

中院の夏の静かさ白い雲

大島 文昭(高20)

でもねなど言葉はいらぬ

夏落葉

栗原 由郎(高21)

白鷺の羽透きとほる秋の風

勝浦 敏幸(高21)

ブナ林の日差しゆらゆら

月夜茸

市川 英一(高23)

「在校生の部」

(天賞)

ペダル踏む

我を呑み込む雲の峯

外山 志穂(1・E)

(地賞)

雨やんで

ペダルひと踏み虹目指し

飯島 一輝(1・I)

(人賞)

地図の路夏の思い出辿る宿

野口 龍太(1・D)

(特選)

くすの木は

ゲリラ雷雨の避雷針

三井 公人(2・H)

ゆるやかに

こもれびゆるる楠若葉

戸田 征宏(1・H)

麦藁帽

目深に覗くは白い笑み

廣長 勇太(1・I)

夜もすがら

机に向かう晩夏かな

作田 裕助(2・J)

蚊をたたく

度に逃げてく方程式

岡安 幹太(2・C)

水しぶき

数多の虹が出て来たり

中野 広大(1・G)

(秀逸)

村呑んだ

五月雨集めるダム湖とは

茂木 天統(1・I)

ひまわりや

活けた三輪そっぽ向き

引地 耕平(1・D)

溝池に踊る宝石源五郎

野口 龍太(1・D)

夜の庭に祭囃子を遠く聞き

大塚 怜(1・A)

玄関に物音のしてもう盆か

島崎 叡悟(2・C)

飲むたびに麦茶の氷音色変え

岡安 幹太(2・C)



俳句大会

「関係者の部」

身ほとりの旭の色紙沙羅の花

阿部 昭子

夏草や言魂揺るる子規の庵

安倍世衣子

朝風や都へつづく能登の空

有山 光子

晩涼の箆笥に妣の婚衣裳

安斉 和子

薄明の町練り歩く風の盆

今井 松子

もうひとつの貌となりたる

浴衣がけ

大會根育代

昔よりBの鉛筆汀女の忌

大原 絹子

蛭やここより山の村に入る

落合 好雄

推敲を止めてちろろに

聞きほるる

片山 茂子

一筋の神酒とくとくと滝開き

金古富士夫

蔵元に空壇積まる夏の果

小峯 知治

言魂と子規の座机夏座敷

坂本むつ子

秋涼や捨てられてある鍋と釜

関口 幹雄

握り鮭波うち際の見ゆる席

内藤 紀子

蒼空の端をくすぐる今年竹

橋本 良子

肩張らぬ余生身につく麦稗帽

深見 浩照

●月例会のお知らせ

年1回の俳句大会のほか、毎月第一土曜日の午後1時より、川高図書館2階同窓会室で句会を開催しています。毎回、大会選者の柴崎甲武信氏と本阿弥秀雄氏に選句と添削をお願いしています。川高関係者として女性も数人参加しています。こちらの参加もお待ちしております。

座談会「新制川越高校の思い出」 新制高校第1期入学生(高5回卒)

同窓会報72号では、「旧制川越中学を語る」というテーマで川越中学を知る世代のOBにお集まりいただいた座談会を掲載しました。今回の73号では、新制川越高校になって受験で合格した初めての入学生、卒業年次では5回生の皆さまの「新制川越高校の思い出」と題した座談会を掲載いたします。参加者は、加藤公男さん、小林道夫さん、野原文夫さん、比留間孝夫さん、八木一郎さん、米山大恵さんの方々です。
会報編集部からは、尾崎勝美(高11)岡部恒雄(高15)栗原忠男(高20)栗原由郎(高21)が参加しました。
出席予定の関口一郎さんからはレポートを頂きましたので、適時座談の中に掲載いたします。(以下、敬称略)

岡部 本日は、お集まりいただきましてありがとうございます。同窓会事務局長の岡部と申します。高校15回生です。事務局からは、次長の栗原忠男(20回)と栗原由郎(21回)が出席しております。はじめに、同窓会報編集長の尾崎さんから挨拶いただきます。
尾崎 おはようございます。11回卒業の尾崎と申します。会報の編集長を担当しております。

以前は校内幹事が編集しておりましたが、平成21年発行の66号からOBが編集することになりました。実質的にはこの年にできた同窓会事務局が担当することになり、外部のOBが編集を手伝うことになりました。
前号の座談会が好評でしたので、今回は、新制高校スタート時のお話を伺おうと編集委員会で決まり、皆様にお集まりいただくことになりました。
当時のエピソードや興味深い先生のことなど存分に語っていただけたらありがたいと存じます。
岡部 ありがとうございます。では、自己紹介から始めたいと存じます。野原さんか

ら順にお願いいたします。



野原文夫

野原 野原文夫です。西大宮から通っていました。川越線を使っていましたが、待ち時間が長く2時間程かかりました。30分歩いて30分待たされて、30分乗って30分歩いて学校へ。そんな通学でした。
加藤 加藤公男です。陸上競技部に所属していましたから、勉強と練習ばかりで川越のことは何も知らない。そんな高校生活でした。



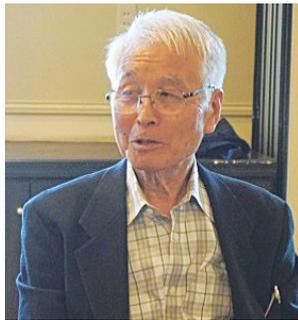
比留間孝夫

比留間 比留間孝夫です。高麗川から川越線を通っていました。当時はSLが走っていて駅に近づくスピードが遅くなるので、家の近くで飛び降りる。そんな豪傑もいました。

たね。

そんな時代でね、川越に通うようになってカルチャーショックが強烈だったことを覚えています。

八木 八木一郎です。現在入間市の金子村の出身です。通えないので1年位、下宿していましたがカルチャーショックの連続でした。下宿したおかげで川越の人とは仲良くなりました。音楽部ではなかったのですが、音楽の牧野先生に引っ張られてよく山登りやスキーに行きました。



八木一郎

米山 米山大恵と申します。大に恵で「ダイエ」です。お寺の二男坊で親父が般若心経の一説から選び「ダイエ」と名付けたそうです。

名細村の出身です。地元の新制中学校はほとんど授業をやつてなかつたので、越境入学して川越初雁中です。当時の校舎は武徳殿、今の川越本丸御殿でした。
川越には小さいころからよ

く来ていたので、心配はありませんでした。また、実家から学校まで歩いて1時間程でしたから。

小林 小林道夫と申します。入間川から西武新宿線を通っていました。

私のこの姿は、徳さんの化身(佐藤徳四郎先生)。この骨格は、徳さんによってつくられたと思っています。
徳さんについては後ほど、じっくり語らせてもらいます。

岡部 先輩方は、なぜ入学先として「川越高校」を選ばれたのですか？

加藤 アチーブメントテストというのがあってね。全県一斉の試験で得点上位が入学できた。

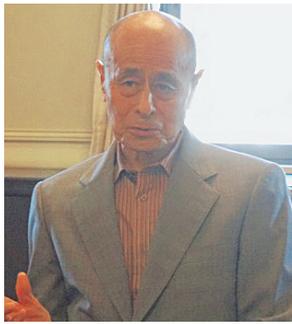
野原 片倉製糸が作った片倉学園というのがあって、そこで試験を受けました。その時の最高得点は400点満点で385点だったことを覚えてる。300点以上取らないと、浦高や川高には合格できなかった。

米山 私の学校では、担任が全員に希望を聞いてくれて自分がどこを受けるか選択できた。私は父も叔父も川中だったので、自然と川高へ。それでも川中への進学者は村で1

人ぐらいでした。
比留間 兄弟がみな川中卒だったので、川中の中島先生が勧めてくれた。

八木 私の金子村は青梅の学校に行く人が多く川越に進学する人は少なかつた。青梅は東京だからカッコ良かったのだが。

米山 高校のころ、親父に頼まれて名細から青梅まで自転車で行ったことがあったけど遠い。途中の金子で休んだけれど、行程の半分でくたくたに。



米山大恵

比留間 親戚が川中だったから「川高へ行け」と。それで川越高校に進学することに。川高は田舎からみると憧れの学校だった。

八木 田舎育ちだったから川越高校に入学できただけで満足してしまふ。ところが市内の生徒は川高入學がスタートで勉学に励み競い合う。私は努力しなかつたからなあ…。

小林 私は母子家庭だったので川高に入学できなければ就

職しろと…。必死で勉強しましたね。



小林道夫

(関口) 私は学問で身を立てるという父の方針で、上石神井にあった市立中学へ通った。付属の高校へ進学するのが普通だったが遠いし学費も高い。そこで私たちの村で憧れの学校であった川中の後身である川越高校を選択した。白い線の入ったあの学帽を被りたいという思いが募つてもいたしね。

岡部 上級生との関係はどうだったのでしょうか？

加藤 先輩が怖かつたね！ 私たちは国民学校↓新制中学校↓川越高校という流れ。川中の先輩たちには、新入生を迎えるにあたって2年間のプランクがある。新制中学卒の新入生が入ってきた。さあ、やってやれ！ そんな思いが先輩たちにあつたのかな。怖かつたねえ。

(不特定の声)

「弁当を食べていると竹刀な

んかを持った上級生が入つてきて説教が始まる。自分たちの経験した教練のつもりだったのかね？」

「それで3時間目が終わると早弁するようになったのかな」

「私たちは6クラスあつたから手分けしてきていたよ」

「先輩たちも大変だ」

「先輩風を吹かせたかつたんじゃないか」

「川中の質実剛健を先輩たちに伝えたかつたんだよ」

尾崎 私たちの時代もそれはありました。入学当初は、弁当の時間になるといつも先輩たちが教室に来て、運動部への勧誘や指導まがいのことがありました。

(関口) 通学途中は、上級生と目を合せないように道の隅っこの方を俯き加減で歩く。お昼休みの説教が怖かつたからだ。憧れの白線の学帽を被つて意気揚々のはずが…。上級生は怖かつた！

(不特定の声)

「そういえば、みんなホウバ(高下駄)を履いていたね」

「1年生の時はビクビクだったと学年が上がるにつれてホウバで街中を闊歩する！ 川高生はカッコよかつた！」

「自画自賛だ！」

「そうだね」

「私の時代では、修学旅行にホウバを履いてきた生徒がいて帰されましたが…」

「時代は変わる」

「そうだそうだ」



くすのきと玄関と新校舎

岡部 授業についてはいかがでしょうか？

米山 川高に入つて驚いたことは、園芸の時間があつたこと。校庭に畑があり、花や野菜を作つていた。

(不特定の声)

「面白い先生がたくさんいましたね」

「そして在任期間が長い」

「川高だけで他校に行かず定年を迎えた先生も」

八木 バンカラ「徳さん」。体育の松本利雄先生。文化的な牧野統先生。古いタイプの先生が多い中、牧野先生は芸

大出のバリバリで国際的な雰囲気があつて…好きな先生でした。



牧野統先生

(関口) 先生のほとんどは個人的で独立自在。凄い先生がたくさんおられた。デカルト哲学を熱く語る数学の先生。商船大学で教鞭をとつていて米国事情に詳しい英語の先生。鬼大将の陸上の松本先生、応援歌「奮え友よ」ほか多くの作曲をされ川高音楽部を全国レベルまで引き上げた牧野先生。牧野先生とは種々の面で対照的な国語の佐藤徳四郎先生。坊主頭で小太り、カーキ色の国民服を着て、素足に下駄ばき。小使さんと間違えられることも。だが凄人だった。先生は3年間の国語の授業全てを日本の古典文学に充てた。源氏物語が専門

小林 矢口先生という方がおられて怖かつた思い出があり



先頭中央が松本利雄先生



「徳さん」こと佐藤徳四郎先生

ます。なめられないように
。それが2学期から「徳さ
ん」に変わった。佐藤徳四郎
先生・通称「徳さん」は、常々
「専門家になるならに閑
係なく、一級品に触れる」が
持論でした。時流に流されず、
普遍的価値のある書籍を羅列
「これを読め」と指示なさい
ました。たとえば「源氏は、
谷崎。文学史は次田潤」といっ
た具合でした。

の指示でした。授業は、教科
書はさらっと済まし、奥の細
道、猿蓑、方丈記、枕草子と
いった古典まるまる一冊が学
年ごとの教材でしたから大変
でした。しかし書籍に親しん
だことが、その後の思考力、
判断力等に多大な力を与えた
ことは歪めません。
徳さんは「一級品に触れる」
と指導されましたが、徳さん
そのものが「一級品であつ
た」と私だけでなく指導を受
けたすべての者が尊崇の念を
抱いているのではないでしょ
うか。
(不特定の声)
「教科書は、最近よく耳にす
るノリ弁だったね」
「軍国主義から自由主義へ：
教科書も教育方法も確立して
いなかっただんじやないのか
な」
「だから、教科書を使わない
授業が多かったのかもしれない
ね」
「漢文の近藤鉄城先生なんか
教科書は一切使わない。もし
てエロ漫談ばっかりしてい
た」
「当時は、川越高校に地方か
ら来た人は選ばれた人。優秀
な人が多かったが、のんびり
しているとすぐ成績は急降下
してしまう」

「中学校時代はボケツと過ご
してしまつたが、川越高校の
3年間で川中の伝統を植え付
けられた気がします」
「今考えると、川越高校の3
年間は素晴らしかった。一生
懸命勉強する人が多かった。
勉強以外にも、あらゆる面で
幅の広い人、本質的に教養の
ある人：そんな方たちに教え
ていただいた」
「徳さんの授業では『おみく
じ』が怖かった。箱に50本竹
ひごが入っていて数字が書い
てある。おみくじに当たると源
氏物語の解説をさせられる。
出来が悪いと罵声！」
「欠伸した生徒には『前に出
ろ！』そして鼻を挿んで後
ろの壁までぐっぐーと押し
付ける。『目が覚めたか！』」
「昼食はコッペパンに鮎バ
ター。交代で買いに行かされ



旧校舎と右手に講堂

る」
野原 こんなこともあった。
徳さんの『おみくじ』の籤が
でないように穴をふさいでし
まった生徒がいた。生徒が、
籤で決めるのはじんけんじゅ
うりんだ。と言つた。どう
なることかとおな息を飲んで
いたら「じんけんじゅうりん」
と書ければ許すと！幸いその
生徒はすらすらと書いた。
米山 私は大学卒業後、母校
の大学図書館に勤めていたの
ですが、石川先生、大川先生
が原書を持つてきてコピーし
てくれないかという。昭和34
年から43・4年頃までは外国
の雑誌から論文を探しだし、
研究し授業に役立てていたん
だな。川高の先生たちは勉強
しているんだなあと感激しま
した。
岡部 クラブ活動や他校との
触れ合いはどうだったので
しょう？
(不特定の声)
「スポーツは盛んでした。川
女生にもてたサッカー部のや
つがいた。あれ誰だったけ？」
「川女と合同練習している部
活は結構あつたんじゃない」
「本来いないはずの女の子が
グラウンドを駆けてたり：」
「応援団長？ 岡さんっていつ
たつて？ カッコよかつた」

「応援歌(奮え友よ!)は高
校4回生が作詞して牧野先生
が作曲なさつた」
「人間の走る姿があんなにキ
レイだと、川越高校に来て
初めて知つた。これはカル
チャーショックでした。怖い
松本先生の走る姿は本当にキ
レイだった」
「田舎の中学生のバタバタ走
りとは根本的に違うよな」
加藤 松本先生は、当時
400mの現役選手。国体選
手だよ。40歳近くまで国体
出場していた。
(不特定の声)
「そういえば、陸上部は強かつ
たね。全国大会にもよく出て
いた」
加藤 親父さん(松本利雄先
生)に鍛えられ、長野で開催
されたインターハイに800
mリレーで出場したんだけど
1走2走間でミス！ バトン
が繋がらず予選落ち。普通な
ら800mリレーでバトンミ
スなんてありえないのに：。



加藤公男

受賞顕彰碑除幕式



顕彰碑除幕式

平成28年度同窓会総会

梶田氏ノーベル賞受賞顕彰碑除幕式

平成28年度の川越高等学校同窓会定期総会を5月22日(日)に本校体育館で開催。今年度の総会は、梶田隆章氏(高29)のノーベル賞受賞という栄誉があったため、顕彰碑除幕式を開催。講演会には700人を超える参加者があったこと。また水川会館に会場を移して、懇親会を開催した。

顕彰碑除幕式

平成28年5月22日10時。本校、くすのき広場前でノーベル賞受賞顕彰碑除幕式を開催した。

顕彰碑は、梶田隆章氏・田中正同窓会長(高6)・青木勇藤校長(高28)・植田航史生徒会長・川合善明川越市長(高21)・梶田氏の恩師である内河輝臣先生(高10)の皆さんの手によって除幕された。除幕式後、田中会長・青木校長・植田生徒会長から、お祝いの言葉が、梶田氏からはお礼の言葉があった。多くのOBが見守り、梶田氏の栄誉を称えた。

顕彰碑には「自然を不思議と思う心」という梶田氏自筆の詞と経歴が刻まれている。顕彰碑は、校門を入ってすぐ左、校歌碑の隣に設置されている。

記念講演

10時半から本校体育館アリーナにおいて梶田氏による「ニュートリノ 小さな質量の発見」と題する記念講演(12P)に掲載が行われた。川高時代の思い出に始まり、大学・大学院そしてカミオカンデやスーパーカミオカンデの建設。ニュートリノの検出とデータから生じた疑問。その解明に取り組んだ結果としての質量の発見に至るまでの経緯等の講演に、700人を超えるOBが聞き入った。

定期総会

講演終了後、定期総会を開催。田中同窓会長を議長に、議題である①平成27年度事業報告、会計報告が岡部事務局長から、また会計監査が報告され全会一致で承認された。
②平成28年度事業計画および予算案が提案され承認され

総会・ノーベル物理学賞



懇親会で校歌大合唱



頭彰式前での梶田氏

梶田隆章氏経歴

- 1959年 東松山市に誕生
- 77年 埼玉県立川越高等学校卒
- 81年 埼玉大学理学部卒
- 86年 東京大学大学院理学系博士課程修了 助手
- 88年 朝日賞(神岡観測グループ)
- 92年 東京大学助教授
- 99年 東京大学教授
朝日賞(スーパーカミオカンデ観測グループ)
仁科記念賞
- 2002年 バノフスキー賞(小柴・戸塚両教授と共同受賞)
- 08年 東京大学宇宙線研究所所長
- 10年 戸塚洋二賞
- 12年 日本学士院賞
- 2015年 文化勲章
ノーベル物理学賞

懇親会

懇親会は、氷川会館に会場を移し、240人余りが梶田氏を囲み歓談した。

川越市民栄誉賞授賞式
総会の行われている時刻に、川越市役所で川越市民栄誉賞授与式が開催され、川合市長から梶田氏に市民栄誉賞が贈られた。

た。③役員人事では、平成18年5月14日に就任され、5期10年間会長を務められた田中同窓会長から勇退したい旨申し出があり承認された。
後任の会長には、正副会長会議で推薦され、常任幹事会で承認された川高第32代校長菊池建太氏(高17)が議長より提案され、満場一致で承認された。

後任の会長には、正副会長

総会記念講演 ニュートリノ 小さな質量の発見

東京大学特別栄誉教授 梶田隆章(高29回卒)氏



体育館アリーナ特設会場に700人を超えるOBが集い、記念講演が行われた。



皆さん、おはようございます。ただ今ご紹介にあずかりました東京大学宇宙線研究所の梶田でございます。

今日は、高校・大学時代。カミオカンデの実験。スーパーカミオカンデの実験。ニュートリノとはという4つのテーマでお話をさせていただきます。

高校・大学時代

川高時代は弓道部に属しておりました。今こそ弓道部は白に袴の胴衣で練習しておりますが、私の時代は普通の体育着でした。実績は普通でした。学業はというと、古文・漢文は苦手。理系にいました。が化学は駄目でした。川高の伝統に従い部活を引退してから受験勉強に取り組み、埼玉大学理学部物理学科に進学しました。大学でも弓道部に所属、川高時代以上に熱中し、

3年生では副将になりました。埼玉大学の弓道部は、副将が4年になつたらそのまま主将になることが伝統でしたが、大学院進学を考えると両立は無理ということで、主将になることを辞退。弓道部の皆さんに多大な迷惑をかけることになってしまいました。

大学院の入試試験は駄目でしたが、小柴研究室に拾ってもらうことができ、今に至ります。

小柴研究室の受験資料にはカミオカンデのことは何もふれられていませんでした。

学位取得後の1986年に助手になりました。

カミオカンデの実験

1970年代、電磁気力・強い力(陽子と中性子を結びつける力)、弱い力(原子核のベータ崩壊を引き起こす力)という、素粒子に働く力の大統一理論という



カミオカンデの建設 岐阜県神岡に(左から4人目が梶田氏)

考えが提唱され、寿命10の30乗年と言われる陽子の崩壊を発見しようという研究が数カ国で始まりました。わが国ではその装置としてカミオカンデを建設しました。私は22歳でしたが、この実験に加わることで研究者の卵としての活動を開始することになりました。

カミオカンデは幅15・5m、高さ15mの水槽に3000tの純水を溜め、光電子増倍管で1年間観測するという装置です。1983年7月に完成



しましたがヘルメットに作業着、長靴がこの頃のユニフォームでした。増倍管の取り付けはボートに乗っての手作業で数カ月続きました。こんなことが好きだったから研究者として続けてこられたのだと思います。

結局、陽子の崩壊は発見できず、いわば邪魔者のニュートリノが観測されました。ニュートリノは素粒子の一つで電子ニュートリノ。ミューオンニュートリノ・タウニュートリノがあります。ニュートリノは何でも突き抜けてしま

う物質で地球1万個くらい通り抜けてしまいう物質ですが、まれに物質にぶつかることがあります。宇宙線が大気分子に衝突すると、ミューオン・ニュートリノ2個と電子ニュートリノ1個の割合でできると予言されていました。

観測データがおかしい？

実際のデータでは、電子ニュートリノは予想通りでしたが、ミューオンニュートリノは数が少ない。解析ソフトがおかしいのか何かほかに問題があるのか、間違いない探しに1年間取り組みましたが間違いないを発見できない。1986年、この観

測データを解明する研究に専念することを決意しました。

スーパーカミオカンデ

ニュートリノは「ニュートリノ振動」と言いますが、ミューからタウへそしてミューへと転移します。その確たる証拠を発見することはカミオカンデではできません。そこで必要になったのがカミオカンデのおおよそ20倍の大きさの装置を作ることになりました。それがスーパーカミオカンデです。

幅39m・高さ42m・5万tの純水と1万3000個の光電子増倍管からなる施設の建設には、100名を超える研究者が一年かけて1996年に完成しました。

小さな質量の発見

スーパーカミオカンデでの観測の結果、地球の裏側から装置に飛び込んでくるニュートリノは、ミューからタウへまたミューへと姿を変えることが発見されました。種類が変わるということは、質量があるということ。ただし非常に軽く、原子を作っているクオークや電子の仲間と比べると、その質量は100億分の1程度にしかありません。

ん。1998年、高山市で開催されたニュートリノ国際会議学会でこの発見を報告し、それに基づいて論文にまとめ発表しました。

私たちの研究は、私たちの生活の向上・発展に直接役に立つものではありませんが、アメリカのクリントン大統領はマサチューセッツ工科大学の卒業式でこんな講演をしています。

「ちょうど昨日、日本の物理学者が小さなニュートリノに質量があると発表しました。このことは、ほとんどのアメリカ人には大した意味はないでしょう。しかし、このことは、最も小さな素粒子や宇宙がどのようにに成り立っているか、そして宇宙がどのようにに膨張するかというように膨張するかという本的な理論を変えるかも知れません。最も大きな点は、このような発見の影響は実験室に限らないということ。それらは、社会全体(経済だけでなく生活に対する見方、他者との関係、そして我々の歴史上の価値などに影響を及ぼすでしょう)に影

響を及ぼすでしょう)に影



う」そのような発見であることを世界に認めていただきました。

良い師・良い仲間・良い研究プロジェクトに恵まれたこと。陽子の崩壊を探そうとスタートした実験がニュートリノの発見につながり、実験データがおかしいと偶然見つけたテーマを地道に研究してきたことが、ノーベル物理学賞につながったと思っています。

最後に、基礎研究へのご理解と川高から1人でも多くの基礎科学の研究者が出ることを心から祈っております。ありがとうございました。

定時制ものがたり

定時制の半世紀を振り返ると、食料不足の時代、給食室が整備された時代、飽食の時代と大きく移り変わった。元本校栄養士の方に振り返っていただいた。

学校給食―空腹から飽食へ

元本校栄養士 田中むつみ

空腹の時代

1948(昭和23)年、定時制教育が始まると、学校生活で授業の次に重大な問題は空腹をどうするかであった。食料不足の占領下、配給が行われていた時代であった。もちろん今のようないい設備がない中で、昼間めいっぱい働いて学校にきてても給食がないので夜10時・11時まで食事にありつけなかった。

そのため、教職員の奮戦ぶりはいかばかりであったかは、当時の教員であった市川正男先生の著書「夜学生とともに」に描かれている。小麦粉の確保、援助物資の脱脂粉乳の確保、パン屋との交渉のために東奔西走していた時代であった。

員がパンの販売を担当し、1個のコツペパンではどうしようもないという生徒の訴えが記録に残っている。

「七十周年記念誌」に9回生の中野玲子さんが書いている記事は、15円の牛乳と10円のパンを業者が販売していたと記している。

給食室が建設される直前になるとパンとうどんが販売されていたようである。

給食室の完成

1956(同31)年6月「夜間課程を置く高等学校に関する法律」が制定された。本校では、1960年に国庫補助と地元の商店街、市町村、同窓会などの支援のもと、待望の給食室が完成した。その年の6月5日から給食が実施された。当初は1食25円のパンとうどんの給食で、今日のようないい米飯給食はなかった。給

食時間も3回に分けて実施され、授業への影響もあったが、増築により解消した。

パンにマーガリンとジャム、アルマイトの器の中に入った脱脂粉乳とシチューが多かった。食堂に行くときテーブルのうえに給食が並べられていた。

左右の食パン2人分を食べてしまい、見つかって怒られる生徒もいた。のちに4枚の食パンが3枚になり、生徒から苦情が出たこともあった。

1967(同42)年から、パンとうどんの主食に米飯が加わり、徐々にパンから米飯に変わった。食器もアルマイトからメラミン、コレール(強化硝子食器)、磁器へと変わってきた。

国庫からの夜食費補助金は1963(同38)年に1人あたり1食9円17銭ついたので皮切りに、1982(同57)年には76円12銭まで増額されていた。しかし、数年前から会計検査院の検査で勤労学生でない生徒に補助金が



支給されているとの指摘があり、1997(平成9)年度から国庫補助申請書と

勤務証明書の添付が義務づけられるようになった。

飽食の時代

1996(同8)年度の0・157による食中毒をきっかけに生野菜を出すことが禁止され、全部熱処理するようになった。

1998(同10)年、環境ホルモンが社会問題となって食器への関心も高まってきた。本校の給食は全員給食を建前として実施してきたが、給食を食べない生徒が多くなってきたため、1998(同10)年から希望給食に変わった。

一大事業として完成した給食室も1986(同61)年、全日制の学級増に伴い、教室増設のため取り壊され、本館内の会議室へ移転した。さらに、1999(同11)年2月、体育館の改築により防災拠点

を兼ねることになったため、給食室もこの中に移転した。定時制の50年を振り返ってみると、食糧確保に走り回った時代、食堂ができたころ、飽食の時代と大きく移り変わってきた。また、給食をとりまく環境も大きく変わってきている。

本校の給食は、これからもより豊かに、より健康に役立つ給食になるよう、そして心

和む給食室であるよう願う。(百周年記念誌「くすの木」より)

給食委員会の創設

1987(昭和62)年の生徒会組織に給食委員会が設置されました。

生徒会報の1年間の報告がされてます。

給食委員会ははつきりいつて何もなかった気がします。1回だけ、4年生が新聞を出しただけで、あとはたいしてやった感じがありません。

新しい委員会だから、まだ何をやっていいのかかわらなかつたのもありますが、来年は2年目になるのもっと活動してがんばってください。

女子が少なく、4年生しか女子がいなかったから、今度は女子をいっぱい入れる様にしたほうがいいと思います。やっぱり食べ物関係の事は女子のほうがよく気づくと思います。

あとは給食の量とか、もつと味つけを濃くするとか、そんな事だと思います。今度給食委員になる人は、がんばってください。

長岡・森田・吉川
『昭和62年度生徒会報より』

くすの木囲碁クラブ発足

「くすの木囲碁クラブ(会長・加藤公男氏)」が発足した。第1回例会は、平成28年7月30日。参加者は現役部員を含め24人。菊池建太同窓会長に御挨拶をいただき、現役生とOBとの交流を目指した会としてスタートした。第2回は10月29日、第3回は1月28日に開催され、各回24人が参加している。興味のある方は同窓会事務局までご連絡下さい。

四校対抗囲碁大会

浦和、熊谷、春日部と我が校が親睦を兼ねて囲碁大会が11月3日、春日部高校で開催された。我が校からは、加藤公男(5)、関口一郎(5)、吉田勝友(10)、吉田正(10)、金井毅夫(11)、三宅義信(12)、浅野裕幸(15)、新井望丕(15)、宮崎勝弘(15)の9氏が参加した。新井氏は4勝と一人気を吐いた。囲碁会終了後の懇親会を含め四校OBとの親睦を深めることができた。各校の参加者数にばらつきがあり、恒例の四校対抗戦は中止となった。



春日部高校大会議室にて

第41期日本棋院 棋聖戦第三局開催に協力

2月8日9日に川越の山屋を会場に開催された棋聖戦第3局の開催に協力した。2月7日氷川会館で行われた前夜祭には多くのクラブ員が出席し盛り上げに一役買った。



29年度の定例会

会場は本校セミナー室。4月29日(土)、7月29日(土)、10月28日(土)、11月27日(土)午後1時より11月初旬に4校対抗戦を川越高校で予定。

三宅義信(高12)

マスターズ甲子園初勝利

マスターズ甲子園とは、全国の高校野球のOB・OGが、プロ、アマのキャリアなどの壁を越えて出身校別に同窓会チームを結成し、「甲子園球場」で白球を追い駆ける夢の舞台を目指そうとするもので、2004年に始まった。

我が野球部OBチームは2010年に初出場した。今回は激戦の埼玉県大会を勝ち抜き、3回目の出場であった。11月6日の第1試合、対鳴門渦潮(徳島)戦で、我がチームは4対3により初勝利を挙げた。



初勝利の瞬間

相手の鳴門渦潮は、旧鳴門工業高校と旧鳴門第一(鳴門商業)が合併してできた高校で、旧鳴門工業高校は春5回、夏5回、鳴門第一高校は

春4回、夏1回、それぞれ甲子園に出場し、プロ野球選手を数多く輩出している強豪校です。

試合は5回表の先攻鳴門渦潮の攻撃で、ヒットと死球で一、二塁とすると8番岡本がヒットで1人が生還、1対0とする。続く6回にも一死二、三塁とした鳴門渦潮は、4番福井が右中間ヒットで2対0とリードを広げた。

しかし、8回裏の川越の攻撃で梶田がレフト前ヒット、続く長谷川は四球で出塁、無死、二塁から長瀬がライト前ヒットを放ち、送球が乱れる間に二塁ランナーの梶田がホームを踏み1点を返す。この得点により80人を超す我が校大応援団の氣勢が上がる。



応援部 OB

だが、相手もすぐ反撃し、9回表、二死無塁から庄野がヒット、次の小西がセンターの頭上を越える二塁打を放ち、3対1と差を広げる。こ

のまま相手の勝ちと思われたが、我がチームは「神」つて「反撃」に出る。

最終回の攻撃で先頭打者大塚のライト前ヒットと山村の死球で一、二塁とし、バツテリー間のエラーの間に進塁。梶田がレフトセンターの間を抜く三塁打を放ち、二者が生還。同点となり一気に振り出しに戻した。二死三塁から相手バツテリーミスで三塁ランナーが生還、4対3の劇的なサヨナラゲームとなった。

この勝利は、我が校の応援団OB会と吹奏楽部OB会の皆さんの身銭を切る応援の賜物であり、大いに感謝し、お互い肩をたたき合い感激に浸った。



吹奏楽部 OB

なお、本校同窓会の菊池同窓会長より、激励金10万円を頂いたことも大いなる励みとなった。

ありがとうございました。報告 梶田憲一(高46)

母校だより(一)

文化講演会

オリンピック勝者の法則

法政大学

スポーツ健康学部教授
山本 浩氏(高24回)



今日は「オリンピック勝者の法則」と題して話をしたいと思います。

リオ・オリンピックの卓球を現地で見ました。写真の手前が石川佳純さんです。彼女はシングルスでは3回戦で負けてしまいました。彼女が銅メダル。男子団体は銀メダル。水谷選手は個人で初めてメダルを取りました。日本の実力は高いのです。世界ランキングでは水谷選手は5位。石川選手は6位。2004年頃は30位以内に日本選手は一人もいなかった。それがじわじわと上がってきた。もっと強いのは若い世代で

す。18歳以下のランキングトップは日本の張本選手。13歳。女子は1位から6位まで全員日本の選手です。なぜ強くなったかと言うと2000年に文科省がスポーツ振興基本計画というのを立てました。

さらにオリンピック委員会がゴールドプランというメダルをたくさん取る計画を立てて12歳以下のナショナルチームを作り、2002年からは若い選手をどんどんドイツに送り出した。さらに2008年、エリートアカデミーを作った。これは東京都北区にあるナショナルトレーニングセンターで長期間・集中的な指導を行うもので卓球では中学1年から高校3年まで12名を集めトレーニングしてきました。ここでの考え方は、全中やインターハイではなく直接世界を目指すというもので、家庭教師付きで海外留学させている。また、心理学者を雇い留学させた選手たちとLINEをやり取りしているんです。エリートアカデミーでは

栄養管理をしつかりする。生活支援もする。お医者さんもついている。海外遠征もする。教育への配慮もある。そして高いレベルで練習するという非常に厚いサポートを行っている。だからメダルが獲れたんです。

リオ大会、国別メダル獲得数は6位。水泳・柔道・女子レスリング・水泳・体操とメダルを獲ってきました。それが陸上競技は徐々に減っていき、それが終盤のリリースで銀メダルを獲った。さすが、やった。実は400mリレーですが日本は結構自信を持っていてるんです。

なぜスポーツを勧めるのか？ それは人間に自立を促すから。スポーツには自分一人にならなきゃいけない時間がふんだんに含まれています。また、自分の意志で、自分の判断で行動を起こす時間が必ずやっています。スポーツはスポーツをする人間にクリエイティブを要求してきます。だから、スポーツをする子供を一人でも増やしていく必要があるのです。

しかし優勝したジャマイカと比べると記録的にたいした選手がいません。100mの合計タイム、ジャマイカは38秒89。対して日本は1秒以上遅い。このタイム差を距離換算すると15m。これではメダルは獲れない。この差を縮めるためにバトンパスの方法を生懸命考えた。バトンパスの方法には後ろに手を伸ばすため、肩がねじれるが距離を獲得できるオーバーハ

ンドと、肩はねじれないが距離が稼げないアンダーハンドパスがあります。オーバーハンドは時間の節約になるが安定性がない、そこで日本は確実なアンダーパスを選択しました。バトンゾーンを最大限使いテイクオーバーゾーンをトップスプリードで走る練習を徹底的に行った。

劣っている走力をテクニクでカバーして37秒60で銀メダルを獲った。アンカールのウサイン・ボルトがいるはずのないケンブリッジ選手が真横を走るのを見て「なんだこいつ」と横目で睨みつけていた。そのボルトがフィニッシュ後「日本はすごい。日本のバトンワークは凄い」と褒めちぎっていました。こんなパスワークができたのも映像分析によってわずかなことでも科学的データをもとに、トレーニングしたこと。また、選手個々の能力を見極め1〜4走に上手くあてはめることでメダルを獲りに行きアジア新記録で「銀」を獲得できたのです。

母校だより(二)

スーパースイエンス
ハイスクール

全校講演会

「基礎科学研究」

ニュートリノとその他の

宇宙線研究を例に

今年度は改めて全校生徒を対象にした梶田隆章先生による全校講演会を実施できました。今回の講演会ではノーベル賞の受賞理由となるニュートリノ振動と質量の発見、さらに今後の観測成果が期待される重力波観測について、高度な内容での講演となりました。先生は今年度もSSH運営指



導委員を務めてくださり、発表会の折には生徒に直接に指導くださいました。

物理コンテスト全国大会

全国物理コンテスト物理チャレンジ2016で、三年生の角祐太郎君(物理部)が予選参加者1503名(理論・実験)から全国大会進出の百名に選ばれました。全国大会は八月に東京理科大学野田キャンパスにて三泊四日で行われました。五時間の理論問題と五時間の実験コンテストで物理の能力を競い合うものです。

全国大会 準優勝

「ロボカップジュニア」

物理部二年生6名が2016ロボカップジュニア全国大会に出場。準優勝



は昨年度に引き続き連続2回目。ロボカップは、人の操作によって動くロボットではなく、自律型ロボットによる競技会です。



全国高等学校総合文化祭

物理部の生徒3名が広島で行われた全国高等学校総合文化祭に参加しました。テーマは「イオンクラフトの浮上力」で、昨年度の科学教育振興展覧会にて優秀な作品と認められ総文祭に推薦されたものです。総文祭は7月30日から3日間の日程で、広島大学にて開催されました。

科学教育振興展覧会

10月に行われた埼玉県高等学校科学教育振興展覧会では物理の「イオンクラフ

トの浮上力」と生物の「クマムシのトレハロース代謝」が金賞を獲得、中央展に出品しました。このうち、「イオンクラフトの浮上力」が第41回全国高等学校総合文化祭に再び推薦されることとなりました。

SSH生徒研究発表会

2017年2月25日、SSH生徒研究発表会が行われ、多くの生徒が研究成果を発表しました。身近な題材から相対性理論の研究まで、のべ42テーマが発表されました。生徒研究発表会はSSHの年間の総まとめで、SSHを通して探究する力を身につけるだけでなく、他者にわかりやすく伝える工夫などを行い、懸命に発表に臨み、本校SSHの締めくくりにあつさわしい発表会となりました。

さて、本校の先端的理数教育の取り組みはSSHの理念や経験を受け継ぎ、本校独自のプログラム「川高サイエンス探究」としてH29年度より再スタートいたします。

SSH企画部 吉田 晃

部活動の主な成績

- ◆水泳部
 - ・関東高等学校競技大会 400m自由形リレー出場
 - 岡崎皓史郎(3) 青山英生(2)
 - 三崎祐太(2) 若林陸(2)
- ◆弓道部
 - ・関東高等学校弓道個人選手権選抜大会7位
 - 杉田快斗(2)
- ◆剣道部
 - ・県新人戦(個人) 3位
 - 高橋輝平(2)
- ◆卓球部
 - ・高学年別強化卓球大会 個人2位
 - 岩附亮太(1)
- ◆物理部
 - ・全国物理コンテスト大会 参加
 - 角祐太郎(3)
- ◆生物部
 - ・日本学生科学賞埼玉県大会 優良賞
 - 大附祐也(2)
- ◆古典ギター部
 - ・全国学校ギター合奏コンクール 銀賞
- ◆美術部
 - ・全国美術大会 優良賞
 - 佐藤広大(2)
- ◆新聞部
 - ・第61回埼玉県学校新聞コンクール 優秀賞
- ◆音楽部
 - ・埼玉県合唱コンクール 銀賞

※()内は学年

2017年度 大学等入試合格状況一覧

母校だより(三)

国立					私立					私立				
大学略称名	現役		過年度卒		大学略称名	現役		過年度卒		大学略称名	現役		過年度卒	
	合格	入学	合格	入学		合格	入学	合格	入学		合格	入学	合格	入学
小樽商大			1	1	岩手医大	1				日赤看護大			1	
北海道大	4	4	4	4	東北医薬大			1	1	法政大	21	4	32	4
東北大	7	7	4	4	埼玉医大			1	1	星薬大			1	
茨城大	1	1	1	1	駿河台大	1				武蔵大	2		4	
筑波大	6	6	4	4	東京国際大			1		東大都市大	3	1	4	1
宇都宮大	2	1			獨協大	1		6	1	武蔵野大			1	
群馬大	3	3	2	2	文教大	15	5	3	2	武蔵野美大	2	1		
埼玉大	13	13	13	13	日本薬大			1	1	明治大	84	15	54	10
千葉大	6	6			千葉工大	3	1	1	1	明治学院大	1	1	3	
東京海洋大			1	1	青山学院大	9	2	1		明治薬大	5	2	3	
電気通信大	1	1	2	2	亜細亜大			1	1	明星大	2		3	2
東京大			1	1	学習院大	6	1	9	2	立教大	36	6	23	1
東京外大	1	1	1	1	北里大	5	1	5		立正大			1	1
東京学芸大	6	6			慶応大	20	12	12	4	早稲田大	43	26	33	9
東京芸大	1	1			工学院大			4		デジハリ大			1	1
東京工芸大	4	4			国学院大			1		神奈川大	1		1	
東京農工大	15	15	6	6	国際基督教大			2	1	神奈川科大	1			
一橋大	4	4	2	2	国士舘大			1		帝京科学大	1			
横浜国立大	2	2	1	1	駒澤大	4		2		京都産業大			1	
新潟大	1	1	2	1	芝浦工大	50	10	32	3	同志社大	1		5	1
金沢大			1	1	順天堂大			1		佛教学大			1	
山梨大	3	3	1	1	上智大	12	6	9	2	立命館大			7	2
信州大			3	3	昭和医大	1	1			関西大			1	
静岡大			1	1	成蹊大	4	1	6	1	近畿大			1	
名古屋大	1	1	1	1	成城大			1		計	506	126	442	73
三重大			1	1	専修大	4	4							
京都大	1	1	1	1	大正大			4						
大阪大	2	2			大東文化大	2		1						
神戸大			1	1	拓殖大			1						
岡山大	1	1			多摩大	1		1	1					
広島大			1	1	中央大	43	9	31	2					
鹿児島大			1	1	東海大			7						
鹿屋大	1	1			東京経大	1		1						
鹿屋体大	1	1			東京造形大	1								
計	86	85	57	55	東京電機大	7		3						
					東京農大	16	5	7	3					
					東京薬大	1		1						
					東京理大	55	5	45	6					
					東邦大	1								
					東洋大	14	1	25	5					
					日本大	25	6	33	3					

公立					大学校				
大学略称名	現役		過年度卒		大学略称名	現役		過年度卒	
	合格	入学	合格	入学		合格	入学	合格	入学
国際教養大	1	1			防衛医科大	1		1	1
首都大	3	1	2	2	国立看護大	1	1		
計	4	2	2	2	防衛大			1	1
					水産大			1	
					計	2	1	3	2

職名	氏名	所属
主事	赤松昌幸	飯能南高校
業務主事	池山友邦	川越西高校
"	星井政一郎	川越女子高校
"	川越南高校	川越南高校
"	室井こずえ	川越南高校
"	遠藤公司	川越南高校
"	岡村能成	川越南高校
"	細谷一茂	川越南高校
"	春摘弘信	川越南高校
"	野中俊秀	所沢商業高校
"	由木智子	北本高校
教諭	三木純	草加高校
"	「任期満了」	
主任	堀保己	二瓶耕治
業務主任	田中美絵子	上尾高校
主任	吉田晃	伊奈学園総合高校
担当部長	小野圭弘	吉本真司
"	豊岡高校	ふじみ野高校
"	伊奈学園総合高校	浦和高校
教諭	岡田稔	浦和高校
教頭	高橋泰綱	浦和高校
「転出」	狭山清陵高校	校長
主任司書	志水文子	川越高校
教諭	中田哲夫	川越高校
「退職」		
主任司書	志水文子	川越高校
教諭	中田哲夫	川越高校
「転入」		
教頭	内田正俊	川越南高校
教諭	橋本美奈子	日高高校
非常勤講師	鎌塚智樹	日高高校
"	林岳彦	ふじみ野高校
"	長島一樹	浦和高校
"	鶴ヶ島清風高校	校長
主任	柳澤美貴子	川越総合高校
担当部長	伊藤憲司	文書館
「新採用」		
教諭	寺本元治	川越女子高校
非常勤講師	牧野彰吾	川越女子高校
「再採用」		
教諭	千田環	不動岡高校
"	橘茂	川口北高校
"	泉谷悠平	川口北高校
"	さいたま市立	大宮西高校
"	伊藤英治	大宮西高校
業務主事	蔵市立第一中学校	蔵市立第一中学校
"	大熊敏敬	蔵市立第一中学校
"	下平優	ふじみ野高校
"	遠藤良枝	小川高校
非常勤講師	所沢北高校	所沢北高校
"	江里俊幸	所沢北高校
"	佐藤けい子	高文連事務局
"	高橋祥充	所沢北高校
"	川越工業高校	川越工業高校

人事異動

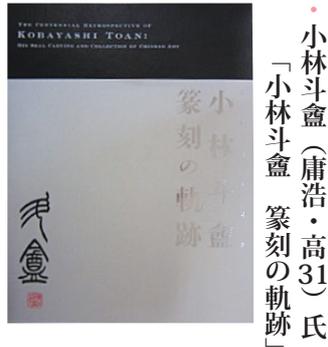
相馬幸子
竹内幸恵
所沢西高校

事務局より

◆叙勲受章者

- 平成28年秋
- 瑞宝小綬章
 - 堺 正一氏(高14)
- 教育功労
 - 元公立養護学校長
 - 瑞宝双光章
 - 大室 忠行氏(高13)
- 外交領事事務功労
 - 元在英日本大使館参事
 - 瑞宝双光章
 - 高橋 好次郎氏(高16)
- 教育功労
 - 元公立小学校長

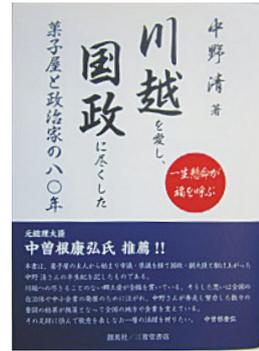
◆寄贈図書



内田紀成氏(高2) 「あいラブマグロ&木版画」



中野 清氏(高6) 「川越を愛し国政に尽くした 菓子屋と政治家の八〇年」



堺 正一氏(高14) 「素顔の塙保己一」



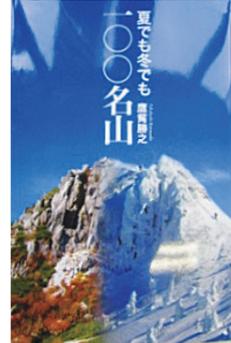
理崎 敬(清水健・高19)氏 「大凡の日々―妹尾義郎と宗教弾圧」



本橋信弘氏(高27) 「全裸監督 村西とおる伝」



鷹嘴勝之(高27) 「夏でも冬でも一〇〇名山」



安藤優一郎氏(高35) 「幕末維新消された歴史」



冲方丁(藤野峰男・高47)氏 「十二人の死にたい子どもたち」



同窓会役員

- 平成28年度総会で会長等が交代しましたので新体制を紹介いたします。
- 会長 菊池建太(高17)
 - 副会長 岩堀弘明(高8)
 - 並木利志和(中44)

幹事

- 加藤博之(高5)
- 市川章弘(高7)
- 西 信之(高17)
- 石山 豊(中45)
- 原田雅義(中45)
- 岸 昭夫(高2)
- 松井頼敏(高4)
- 根岸光明(高4)
- 横内 洋(高5)
- 滝島幸昭(高5)
- 水村博美(高8)
- 小寺貞安(高8)
- 斎藤 博(高9)
- 高島敏明(高16)
- 高橋兼次(高16)
- 田村昭雄(高17)
- 田中庸久(高19)
- 清水純一(高20)
- 柴崎育久(中48)
- 竹間正雄(高4)
- 尾崎勝美(高11)
- 中野 清(高6)
- 吉沢 優(高19)
- 清水徳雄(高19)
- 栗原忠男(高20)
- 栗原恒久(高20)
- 栗原由郎(高21)
- 星野 誠(高9)
- 吉田矩康(高13)
- 岡野雅幸(高22)
- 林 和彦(高28)
- 岡部恒雄(高15)

顧問

- 松本一博(中37)
- 田中 正(高6)
- 川合善明(高21)

(学校関係)

- 校長 青木勇藤(高28)
- 特別幹事 高橋泰綱(教頭)
- 小川 剛(教頭)
- 岩寄 裕

校内幹事

- 小泉光男(高29)
- 石川智之(高33)
- 水村晃輔(高53)

平成28年度分 終身会費納入の御礼

平成28年度の終身会費納入者は別刷のとおり、344人の方々です。

これにより、合計6、919人になります。しかしながら、終身会費納入を願っている対象者の30%です。

同窓会の運営は、平成23年度以降の卒業生に入会金と終身会費2万円と、それ以前の卒業生の終身会費5千円から成り立っています。

なお、既に納入していただいている会員の皆さまには、振込用紙は添付してありません。

事務局長

◆総会のご案内

日時 5月28日(日) 午前9時半より受付

会場 川越氷川会館(氷川神社内) 電話 049(222)8417

- ・総会 10時～ 桂の間
- ・記念講演 11時～12時 桂の間
- ・懇親会 12時15分～14時15分 鳳凰の間
- ・懇親会費 7,000円

◆記念講演

講師 神山典士氏(高31回) ノンフィクション作家、2014年「佐村河内事件報道」で大宅荘一ノンフィクション賞受賞、現在、サンデー毎日に「下山時代の仕事術」を連載中

演題 『下山時代の仕事術—この時代をしなやかに生きるために』

準備委員会の設置

母校は、2019年(平成31)に創立120周年になります。このため、120周年記念事業開催準備委員会を設置しました。

これは、次のステップである120周年記念事業実行委員会へ移行する準備のものです。準備委員会では、実行委員会の構成、基本的事項の策定を行うものです。

同窓会では、この準備委員会の提案を受け、同窓会総会で実行委員会の設置を決定していただくものです。準備委員会の構成は、準備委員長 同窓会長 準備副委員長 後援会長

同窓会ホームページを活用しよう

<http://alumni.gnk.cc/kawagoe/>

年1回の同窓会報では載せきれない同窓生の活躍のニュースや学校行事など即時性をもって掲載しています。

また、「お問い合わせ」「伝言板」では、住所変更の連絡、同期会の呼びかけなどに活用できます。

120周年記念事業開催

P T会長
学校長

準備委員

同窓会2人
後援会2人

P T会2人

教職員2人

また、会事項をあらかじめ整理するため幹事会を置きます。

幹事

教頭 2人
事務部長

後援会・PT会 1人

同窓会 2人

第1回の準備委員会は3月21日に行われ、委員会の構成員の決定を行いました。

第2回準備委員会は、5月13日(土)に開催し、移行する実行委員会の構成と記念事業の基本的内容を検討します。

これとは別にメールアドレスもありません。

alumni@hb.tpl.jp

同窓会事務局への連絡に便利です。

また、同窓会事務局への連絡は専用電話&FAXにてお願いいたします。

電話&FAX
049(2225)9071

編集後記

昨年五月の同窓会総会は、ノーベル物理学賞の梶田さんを迎えて顕彰碑除幕、記念講演、懇親会と大いに盛り上がり、沸き返った。その雰囲気をお伝えしたく、ワイドな写真をレイアウトした。今年の総会もOB皆さんの参加を大いに期待したい。

今号も座談会を企画した。旧制中学から新制川越高校移行した当時の思い出を、高校五回卒の皆さんに語っていただいた。昭和二十年代の空気が伝わってくるだろう。

事務局からのページで毎回寄贈図書を紹介を行っている。もし漏れている方がありましたら、ぜひ事務局宛新刊一冊のご寄贈をお願いしたい。

前号「座談会」記事中、九ページ四段目の宮崎氏の発言に「78期生」とあるのは「74期生」の誤りでした。訂正してお詫びいたします。

本紙の感想を左記編集委員にお寄せください。(尾崎)

- 伊藤 豊(2) 尾崎勝美(11)
- 岡部恒雄(15) 仲田勝己(16)
- 圓山壽和(17) 栗原忠男(20)
- 栗原由郎(21) 一瀬 要(23)
- 大澤 誠(26) 平野正美(26)
- 小泉光夫(29)